

2011.04.23 原田作成

つくば市民白書 2012 実行委員会 第10回会合議案

日時：2011年4月23日(土)10:00-12:00(予定)

場所：市民活動センター

議題：

- (1) 報告(経過、その他)
- (2) 協議
 - ・編集方針、編集委員会構成、目次構成案の確定
 - ・立ち上げシンポジウム(5月)
 - ・実行委員拡大の検討
- (3) その他

(1) 報告

①経過報告

3月26日(土)	第9回実行委員会	(市民活動センター)
4月23日(土)	第10回実行委員会	(市民活動センター)

(2) 協議

①編集方針の検討

別紙「編集方針」参照

②編集委員会構成

(原田提案)

編集長：委員の中で互選

委員：亀山、野口、寺門、河村、矢澤、山本(必要に応じて追加する)

③目次案の作成

別紙「構成案」参照

④立ち上げシンポジウム

(目的)

1. 白書2012の編集が行われていることを広く知ってもらう
2. 実行委員会拡大
3. 白書の内容の整理

(名称) つくば市民白書2012 編集開始立ち上げシンポジウム

(日時) 2011年6月の土か日(4, 5, 11, 12, 19, 20, 25, 26) 13:00-16:00(3時間)

(場所) 未定

(人数) 20~30人

(資料代) 500円

(内容)

- | | |
|-------------|---|
| 13:00-13:15 | 1. つくば市民白書の概要の説明、2012版の特徴(河村) |
| 13:15-15:15 | 2. 各論(15分×4件) <ul style="list-style-type: none">1. つくば市の財政問題(亀山)2. つくば市の環境行政の課題(矢澤)3. つくば市の教育問題(寺門)4. 地域コミュニティ問題(野口) |
| 15:15-15:45 | 意見交換 |
| 15:45-16:00 | 3. 体制、編集方針、スケジュール予定、終了(原田) |

⑤実行委員拡大の検討

立ち上げシンポジウムの案内で実行委員を募集する

⑥スケジュール

(4月)

・目次案完成、編集体制始動

(4月～7月)

・執筆依頼

(8月～12月)

・原稿執筆、一次稿完成

(2012年1月～4月)

編集、最終稿、印刷、完成

(3) 次回5月 日

5月の土、日 (7,8, 14,15, 21,22, 28,29)

=====
2011.04.23

つくば市民白書 2012、編集方針(案)

1. 概要

(1)つくば市民白書 2012 の編集作業は、実行委員会のもとに設置された編集委員会が行う。

(2)白書の発行責任は実行委員会が負う。

(3)個別論文の内容に関しては、執筆者が責任を負う。

2. 執筆者のためのガイドライン

編集委員会は、執筆者に対するガイドラインを作成し、執筆者に提示する。

ガイドライン(案) は別紙に示す。

3. 実行委員会と編集委員会の役割分担

実行委員会と編集委員会は以下のように仕事分担をし、連携する。

	実行委員会	編集委員会
分担	ガイドラインの決定 目次案の決定 会計管理	ガイドラインの作成 執筆者の選定、執筆依頼 目次構成の調整
編集	執筆者、執筆内容の確認 最終稿の承認	原稿作成過程の管理 印刷所との交渉
関係	課題を検討し、必要に応じて指示する	状況報告 課題の提起

=====
2011.04.23

執筆者のためのガイドライン (案)

つくば市民白書 2012 実行委員会は、多くの市民の共同作業で市民白書を作成したいと考えていますが、執筆者には以下の事項を理解していただき、全体としてまとまりのある冊子となるように論文を作成していただきたいと思います。

①白書の目的

つくばの市政と暮らしの現状・問題点・今後の課題などを市民目線で捉え調査、解析を行い、市民に提示する。

②執筆責任

つくば市民白書に掲載された論文の内容に関する責任は執筆者が負う。

③編集委員会との協議

執筆者は、論文の内容、体裁などに関して随時編集委員会と協議しながら執筆を進める。

④内容に関する注意

- ・できる限り客観的に確認できるデータに基づく。
- ・事実関係の記述と執筆者による解析、評価、提案がはっきりと区別できるように書く。
- ・テーマを明確に設定して、余分なことはできるだけ書かない。

=====

2012 白書構成案 (20110423)

<p>(体裁) タイトル： 「つくば市民白書 2012-(サブタイトル)-」 発行者：つくば市民白書 2012 実行委員会 頒布価格：800 円 印刷部数：2000 (贈呈 200、頒布 1800) A4 版、140 ページ 表紙 カラー印刷</p>	<p>(予算) 総額 130 万円 (印刷費 80 万円、その他 50 万円) 収入見込み：800 円×1800=1,440,000 円</p>
---	---

(3) 目次

0 前文、目次など	担当
1 行政と財政	亀山、野口
特別 つくば市の財政問題 (亀山)	
特別 つくば市の議会の問題 (野口)	
市の概要、行政組織の組織上の問題、運営上の問題	
財政の問題	
都市開発、情報公開、協働、男女共同参画	
2 医療と福祉	横井
高齢化	
3 教育と文化	寺門
特別 つくば市の教育(「教育日本一」の問題) (寺門)	
保育所、幼稚園、小中高、	
文化行政	
公民館の民営化(地域交流センター)	
4 まちづくり	河村
特別 TX 沿線開発()	
特別 地域コミュニティ問題 (野口)	
市街地域、周辺地域	
5 環境	矢澤
特別 つくば環境スタイルと低炭素社会作り (矢澤)	
つくばスタイル、環境行政、市民活動	
6 産業と観光	
つくば市の産業(農業、商業、工業、その他)	
観光	
7 科学技術	
8 平和	
市民の平和への取り組み	
付属資料、実行委員会の紹介、あとがき	

つくば市民白書 2012 実行委員会 第9回会合まとめ

日時：2011年3月26日(土)13:30-16:00 場所：市民活動センター 出席者：河村、山本、酒井、横井、野崎、亀山、寺門、原田 議題： （1）報告（経過、養護学校問題） （2）協議 （3）その他

（1）報告

①経過報告

前回2月27日第8回実行委員会の後、特に活動なし。

②つくば養護学校の問題に関する報告(寺門)

県立つくば養護学校は2007年に開校したが、180人規模の予定が開校時211人、今年4月からは365人と多すぎて教室の不足、詰め込みなど問題が生じている。障害児教育で重要な少人数の体験学習ができない。この背景に文科省が高機能自閉症などの障害種を新たに設けたこととつくば市が学力を低下させる恐れのある児童を通常校から排除していることが想定される。その意味で通常校のあり方の問題でもある。

③「東京をどうするのか」の紹介(山本)

市民白書つくり「東京をどうするか—福祉と環境の都市構想」(渡辺治・進藤兵編、岩波書店)が参考になりそうだ。市民白書でも個別の政策の代案を提示するだけでなく、全体を見通しての批判が必要だ。

④2008年白書残務報告(横井)

2008年白書は40冊程度残っている。会計の残は3800円程度。

（2）協議

①編集方針の検討

- ・白書実行委員会の下に編集委員会を設置する。
- ・実行委員会と編集委員会の役割と責任を明確にする。
- ・執筆のためのガイドラインを作り、執筆者に提示する。
- ・編集委員会の人選はさらに検討する。

②目次案

2008年版の目次を下敷きに構成を検討した。別紙に目次案を示す。以下のような意見が出された。

- ・「行政と財政」の中で「議会の問題」は重要なので大きく取り上げるべきだ。
- ・「TX沿線開発」は「まちづくり」の章できちんと記述すべきだ。
- ・「まちづくり」で北(旧筑波町)と南(旧荃崎町)の高齢化過疎化を取り上げるべきだ。
- ・「まちづくり」で防災を追加する必要がある。
- ・「環境」で二酸化窒素測定運動のまとめを取り上げて欲しい。
- ・「産業と観光」で働く場の創造の観点から産業振興を取り上げるべきだ。筑波大などの先生に執筆してもらえないだろうか。
- ・「科学技術」で原子力行政に触れて欲しい。

（3）次回

4月23日(土)10:00-12:30 市民活動センター会議室

- ・編集方針、編集委員会の組織、構成目次原案を確定する。
- ・5月、立ち上げシンポジウム、実行委員会拡大の計画を検討する。

(以上)